

各地の取り組み ―和歌山県における植物防疫業務―

和歌山県農作物病虫害防除所 主査 岩橋 良典

■農業の概要

和歌山県では、地勢条件や温暖な気候を生かし、果樹では、みかん、うめ、かき等、野菜・花きでは、えんどう、しょうが、スターチス、宿根かすみそう等多様な品目を生産している。

■病虫害防除所の沿革

1977 年に作物病虫害防除所と果樹病虫害防除所が設置され、さらに、1988 年に農作物病虫害防除所に統合された。

普通作物、野菜、花きを担当する農作物病虫害防除所本所、かんきつを主とした常緑果樹を担当する有田川駐在、かき・ももを中心とした落葉果樹を担当する紀の川駐在、うめを中心とした落葉果樹を担当するみなべ駐在と分担して、行政的窓口は農林水産部農業環境・鳥獣害対策室が行っている。

■業務内容

①普通作物、野菜、花き、果樹の病虫害について、予察灯、フェロモントラップ及び巡回調査等によって発生状況の調査を行うとともに発生予察等の情報を提供している。果樹カメムシ類の予察灯による誘殺状況や越冬量はホームページでも公開している。

②病虫害の防除指導は、病虫害防除指針の作成や病虫害防除員・関係機関との連携により行っている。

③スターチスやえんどうの灰色かび病、ミナミキイロアザミウマ、ワタアブラムシ等薬剤抵抗性が地域で大きな課題となっており、薬剤感受性の把握と防除対策の確立に努めている。また、ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査などをする他、現場からの病虫害防除に関する電話相談にも対応している。

④ウメ輪紋病は、本県においても 2013 年に初めて確認された。この病害の撲滅を目指し、調査等を行っている。

■終わりに

薬剤抵抗性が発達した難防除害虫（アザミウマ類およびタバココナジラミ類等）の発生やそれが媒介するウイルス病が問題となることに加えて、和歌山県では 2004 ～ 2013 年の 10 年間に特殊報で発表した病虫害は、キク茎えそ病やトマト黄化葉巻病など 9 種類にのぼる。

今後とも全国の植物防疫関係機関と連携・情報の共有化を図り、迅速に対応することで被害を最小限に抑えていきたい。



予察灯によるカメムシ類調査



水稻払い落としによる調査



【ひこばえにおけるイネ縞葉枯病発生株
(左下写真：媒介虫となるヒメトビウンカ)】